



発行

財団法人 東京都教育文化財団
東京都埋蔵文化財センター
〒206-0033
多摩市落合1-14-2
☎ 042-373-5296

たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No. 44 平成10年10月30日 <http://www.tef.or.jp/maibun/>

H.P.で知り親子で参加。
土器の形や様子は
驚くほど見事な造形。
(40歳 男)

「縄文の丘に土器焼く黍あらし」(75歳 男)

見ていると簡単そう
なのに、ふにゃーと
花びらのようにひろ
がって大変でした。
(12歳 女)

昨年落選。念願が
かなっての参加。
全てが再発見の日々！
(58歳 女)

縄文人はこんな大
作業をよくできた
なあ… (12歳 女)

親子で別々の物を
作れたらよかった
なあと思いました。
(44歳 女)

その昔、考古学関連の授業を
受けた頃を懐かしく思い出し
ました。(68歳 男)

目的は授業の教材。
土器作りのすべてを
得意げに語りたい。
(29歳 女)

普段の日の2、3倍楽しかった。
野焼きもダイナミックで
びっくり！
(12歳 男)

土器で作った豚汁
とてもおいしかった。
(47歳 女)

苦労したけれど、我が
家の床の間にデーンと
置きます。(60歳 男)

今年度の土器作り教室に参加された方々から寄せられた感想の一部です。

出土物は誰のもの

所長 鈴木 雅久

当センターの展示ホールと遺跡庭園は、毎年四・五月、社会科学の授業で施設見学に訪れる小学校の児童で賑わう。一方、七月から開始される年六回の文化財講演会には、毎回かなりご高齢の方を含め、多くの方が都内各地からお見えになり、根強いファンの存在にもまた驚かされる。そんな来館者の皆さんが一言残した落書帳には、「宿題助かった」から「こない所があるのを知らなかった」までいろいろ。都民にとって、実物に触れる機会が少ないことを改めて感じている。

ところで、私の通った区内の小学校では、建設時に弥生式土器が出土した。当時、周囲の畑では、土器の破片を簡単に見つけることができたし、校章には土器がデザインされ、校長室前の廊下には、出土土器が陳列されていたのを思い出す。昔のものがすきな私の趣味も、そんな環境が影響したのかもしれない。今年度、東京都は、文化財を広く都民に公開し、地域の中で、住民の皆さんとともに、活かし、広げ、育てようとの趣旨で、文化財ウィーク事業を実施することとなった。

出土文化財の第一義的所有権をめぐる権限委譲が議論されているいま、当センターや都の保管する出土物も、より効果的に都民に活用されるよう、改めて検討を加える時期にきている。

遺跡だより ⑤2



武蔵国分寺跡遺跡北方地区

今回、紹介するのは、古代の官道（七道）の一つである「東山道武蔵路」の、第四時期目にあたる道路跡です。

この官道は、駅制を整備し、政治・経済・交通を柱とする中央集権国家の体制を確立するため、平城京と各地の国府を最短距離で結んだ幹線道路です。古代の行政区画としての国々は、この七道に付随するものとして定められ（五畿七道の制）、武蔵国は当初、東山道に所属していましたが、宝亀二（771）年には東海道に編入されています。武蔵路は、武蔵国と上野国などの東国とを結び、重要な道路であったと考えられています。

武蔵路は、七世紀後半には構築されていたとされており、第四時期目

にあたる道路跡は一〇世紀頃に使用されていたようなので、武蔵国が東海道編入後も、かなり長期にわたり使用されていたようです。

「東山道武蔵路」は、平成七年度の当センターの調査で、台地を南北に一直線に貫くように構築されていることが確認され、次いで、北側を西国分寺地区遺跡調査会（東京都）が調査し、いっそう明らかになりました。その規模は、両側に側溝を持ち、側溝の中心からの道路幅が12mを測るもので、全長330mもの範囲が姿を現しました。

道路跡は保存が良好で、かつ道路の構築方法、及び3回にわたり改築されて、四時期にわたり長く使われたことが明らかになったこと等の重要性から、本事業地内で確認された範囲が保存整備され、活用が図られることになっています。

ところで今回の調査区ですが、台地の北端から、中央線が走る恋ヶ窪谷に下りる傾斜地にかけて、80mの範囲を対象にしたものです。

第四時期目となると、直進していた道路は、なぜか斜面手前で東側に迂回する格好になっています。そして斜面の自然傾斜よりも道路面の傾斜を緩くするために、地形変換点の近くから切り通し状に開削し、その

底を版築状に叩き締め道路面にしていました。道路面の幅は6mを基本に造られており、この幅を確保するため、斜面下では、開削面の幅が20mで、深さが4mを越す大規模な土木工事が行われていました。

大規模な造成工事が確認されたことにより、本事業地内の「東山道武蔵路」が現状保存されていることに関わりから、当センターでは、七月二十日（月）に、市民の方々にも見てもらおう遺跡見学会を催しました。当日は、国分寺市民をはじめ175名の見学者が訪れました（写真）。

（福岡 宗人）



埋蔵文化財センターの展示ホールでは、各時代の遺跡・遺物をわかりやすく展示してあります。

東京文化財ウィークに参加

この十月から十一月の二ヶ月を、東京都教育委員会は「東京文化財ウィーク」と銘打って、東京都指定文化財等の公開を行います。都民に、文化財に親しんでいただく機会を設ける趣旨で、この行事をPRする、ガイドステーションが当センターにも設置されます。

当センターには、東京都史跡の多摩ニュータウンNo.57遺跡（遺跡庭園）及び都有形文化財（考古資料）のNo.471-B遺跡の旧石器がありますし、文化財マップの配布やガイドブックを閲覧できますので、どうぞお出掛けください。

江戸詰藩士と御長屋

今回は大名屋敷の御屋敷本体から趣向を変えて、江戸詰藩士が住んだ長屋を取り上げることにします。

藩主のお供で国許からやってきた中・下級藩士は、藩邸内にある「御長屋」に「単身赴任」のうえ、藩士数人が一戸に同居して、自炊生活を送っていました。尾張藩は、石高が高い割には上屋敷の敷地面積が小さかったので、藩士たちは、大藩の内では比較的狭い長屋に押し込められていたことになりました。

文化財講座 <34>
大江戸掘りもの帖～十一～

さてその「御長屋」ですが、尾張藩上屋敷では屋敷の四方をめぐるように建てられていたことが、絵図からわかります。また、残された写真から、

長屋が二階建てだったことがわかります。長屋は、屋敷を防御する役割もかねて四方にめぐらされており、同じ理由から、大藩の屋敷は大抵、二階建てでした。

今年の夏、第十一44地点として、その尾張藩上屋敷御長屋の一部を発掘しました。この場所は、屋敷地の南に連なる二連の長屋の内側（北側）にあたります。長屋の建物跡は近代の道路工事で削られ残っていません

でしたが、長屋跡の明池（庭）にあたる場所から、排水溝、井戸、厠（トイレ）、ゴミ穴土坑などの遺構がみつかりました。長屋の裏庭は屋外ながら、重要な生活施設が置かれていたのです。井戸や厠は、掘られた穴に木の桶を組み合わせ、埋め込んで作られていました。

またゴミ穴土坑は約百基ほどが検出され、その中から多くの遺物―使い捨てられた古道具―が出土しました。陶・磁器の碗や皿のほかにも多くの木製品がありますが（写真）、木が朽ちにくい低地の条件が幸いしたようです。木製品には、曲物、蓋、箸、下駄、それに漆器の碗や皿があ



ります。漆器には、たいそう高価な品も少なくありません。

尾張藩上屋敷跡遺跡は、大名屋敷としては遺物の出土量が少ないと言われてきました。この調査地点は、

保存科学室(こぼれ話) (八)

赤色顔料について (2)

前回は赤色顔料の生成を紹介しましたが、今回は、赤色顔料の中の①パイプ状物質、②黒泥中の繊維と鉄化合物、③火山灰と粘土層の境から得られる褐鉄鉱から作られた顔料の、使われ方の違いを紹介します。

赤鉄鉱が母材の①は、赤色のパイプ状の鉄化合物で構成されています。発掘調査では、容器に大切にうに保管されて出土することがあります。

黒泥層中や粘土の境目に生成される②・③の褐鉄鉱から作られた赤色の鉄化合物は、①とほぼ同色でありながら、住居床面などに放置されたように出土することがあります。

この①と②・③は、同じ赤色の物質なのに、なぜか取り扱われ方が違っているのです。現在、分析中の段階ではつきり言えませんが、あるいは集落の立場を象徴的に示唆しているのかも知れません。

例えば、縄文時代中期の集落の場

いままでの少なさをカバーするものとなりましたが、なぜ長屋のような場所からこうした高級品が出てきたものなのか、よく検討する必要があります。

(伊藤 健)



①容器に保管されたパイプ状鉄化合物



②黒泥層中の植物繊維に付着する鉄化合物



③板状の褐鉄鉱の粘土と鉄の化合物



土器表面に使用されたパイプ状鉄化合物



土器表面の鉄化合物中に見られる植物繊維(Si)



土器表面の板状の褐鉄鉱の粘土と鉄の化合物

合、墓域を持つ定住性集落では①の使用例が、墓を持たない短期的な集落では、②③の使用例が多いのです。

(上條 朝宏)

文化財講演会

平成十年度の文化財講演会は、展示テーマ「住まいの移りかわり」に因んだ企画で、年6回の予定です。

第一回目は、七月四日(土)に、映画「汐留遺跡」の試写会を兼ねて、当センターの内野正副主任調査研究員が「発掘から見た大名屋敷のくらし」と題して市ヶ谷遺跡(尾張藩上屋敷跡)の調査成果を話しました。映画も評判が良く、160名もの大勢の参加者が、「江戸」を満喫した一日でした。

第二回目は、八月一日(土)に、小葉一夫副主任調査研究員が、展示テーマ「住まいの移りかわり」の趣旨を兼ねた講演と、映画「標津―堅穴住居をつくる」を上映しました。夏の最中にも関わらず、145名の参加がありました。

第三回は、十月三日(土)に、東京都立大学教授の小野昭氏に、「氷



河時代狩猟民の住まいとくらし」と題して、氏がケルン大学に留学して

出会った、旧石器時代末期のゲナスドルフ遺跡を紹介していただきました。出土した大量のウマや絶滅したマンモスの骨、多くの動物の線刻画、あるいは夏と冬の住居形態の違い等に、135名もの参加者は、旧石器時代を意外に身近かな存在として感じ取りました。ナウマンゾウ・オオツノジカが登場する映画「野尻湖発掘の記録」も、一役買いました。

「汐留遺跡」に文部大臣賞

先号でも紹介しましたが、当センターの監修により、東京シネビデオ株式会社が製作した映画「汐留遺跡」が、(財)日本視聴覚教育協会が主催する今年の優秀映画教材選奨で、最優秀作品賞(学校教育部門高等学校向)に輝きました。

今年の安全標語

七月一日の当センターの創設に因んで、毎年、安全標語を募集しています。今年の第一席には、辻恵子氏を選ばれました。

出土する遺物は日々に変われども
変えてはいけない 皆の安全

窯に描かれたウマの絵の発見

この夏、都道の拡幅工事に先立って東京都教育委員会が実施した調査で、ウマの線刻画が発見されて話題になりました。場所は、多摩ニュータウン地域に隣接する稲城市大丸の瓦谷戸で、No.513遺跡の西方500mに位置します。奈良時代武蔵国分寺創建時(八世紀中頃から後半)の瓦を焼成した窯跡群のある1基からで、燃焼室の右側壁に複数、線刻されています。

このようなウマの絵の事例は、古墳時代末期の横穴墓の壁面には多くありますが、窯跡では初めてのことで、注目されています。



ウマの線刻



汐留遺跡の火力発電所跡

遺跡の見学会

遺跡名…港区汐留遺跡
日時…十一月十四日(土)
12時~15時

集合…JR線新橋駅烏森口下車
徒歩5分

内容…江戸時代 仙台藩江戸上屋敷の庭園池など
明治時代 旧新橋駅関連の火力発電所・転車台
ほか

発見された遺物類
問合せ…埋文センター汐留分室
☎03(3571)6592

R100

古紙100%配合の再生紙
を使用しています。